

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2024年 06月 14日

静岡県知事殿

提出者

住所 静岡県富士市原田506番地

氏名 日本製紙パピリア株式会社 原田工場

緑川 浩樹

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0545 - 52 - 4060

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日本製紙パピリア株式会社 原田工場		
事業場の所在地	静岡県	富士市	原田506番地
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日		

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	パルプ・紙・紙加工品製造業
② 事業の規模	生産金額 7,017百万円
③ 従業員数	100名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙②の通り

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	排出量
	汚泥（泥状のもの）	29,961.000 t
	燃え殻	34.760 t
	廃油	1.150 t
	廃酸	0.000 t
	廃アルカリ	0.000 t
	廃プラスチック類	12.350 t
	紙くず	296.840 t
	木くず	23.790 t
	安定型混合廃棄物	1.820 t
	水銀使用製品産業廃棄物	0.000 t
(これまでに実施した取組)		
汚泥	・ 流失原料の削減を図った。	
廃プラ	・ 原材料、製品の包装資材を見直した。	
木屑	・ パレットは木製→プラスチック製に随時変更した。	
紙屑	・ スキルアップを図り、不良品の発生を減少させた。	

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	排出量
	有機性汚泥	26,964.900 t
	燃え殻	31.284 t
	廃油	1.035 t
	廃酸	0.000 t
	廃アルカリ	0.000 t
	廃プラスチック類	11.115 t
	紙くず	267.156 t
	木くず	21.411 t
	安定型混合廃棄物	1.638 t
	水銀使用製品産業廃棄物	0.000 t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥 ・ 流失原料の削減を図る。 廃プラ ・ 原材料、製品の包装資材を随時見直ししていく。 紙屑 ・ スキルアップを図り、不良品の発生を減少させる。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別について写真入りで注意を喚起した。ゴミ袋に部署、排出者を記載するよう周知・徹底。各現場に分別用容器を設置した。	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別について写真入りで注意喚起を継続していく。ゴミ袋に部署、排出者の記載徹底を図る。廃プラに関して有価での再利用促進に向け。分別の周知・徹底を図る。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
	(今後実施する予定の取組)	

--	--	--	--

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量
	有機性汚泥	0.000 t	29,944.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
	(これまでに実施した取組) 運転管理を行い安定化を図った		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量
	有機性汚泥	0.000 t	26,936.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
	(今後実施する予定の取組)		

	設備の点検を定期的に行い安定的な操業を図る。
--	------------------------

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

産業廃棄物の種類	【前年度（令和 5 年度）実績】				
	① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	全処理委託量 (t)
有機性汚泥	15.320	1.670	0.000	0.000	16.990
燃え殻	34.760	0.000	0.000	0.000	34.760
廃油	1.150	0.000	0.000	0.000	1.150
廃酸	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
廃アルカリ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
廃プラスチック類	10.050	2.300	0.000	0.000	12.350
紙くず	0.000	296.840	0.000	0.000	296.840
木くず	23.790	0.000	0.000	0.000	23.790
安定型混合廃棄物	1.820	0.000	0.000	0.000	1.820
水銀使用製品産業廃棄物	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
(これまでに実施した取組) 燃え殻 有価での再利用先開拓 汚泥 PS焼却炉の煤塵をSMへと戻し再処理、埋立の量を削減。 廃プラ マテリアルリサイクル可能な物について有価での再利用を実施 紙屑 ①戻紙使用量の増加②RPF原料としての有効利用					

①現状

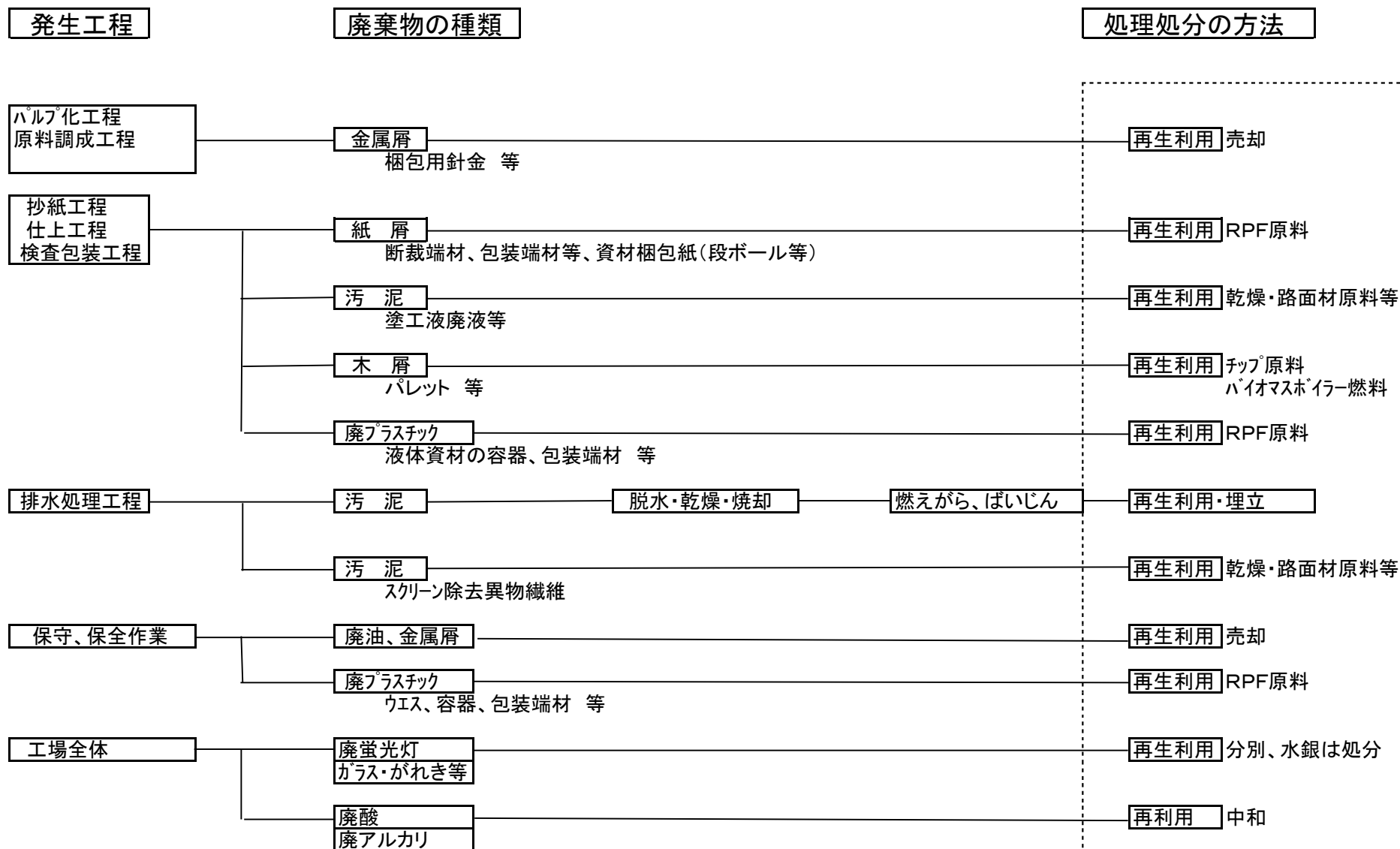
		【目標】				
産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	全処理委託量 (t)	
有機性汚泥	13.788	1.503	0.000	0.000	15.291	
燃え殻	31.284	0.000	0.000	0.000	31.284	
廃油	1.035	0.000	0.000	0.000	1.035	
廃酸	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
廃アルカリ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
廃プラスチック類	9.045	2.070	0.000	0.000	11.115	
紙くず	0.000	267.156	0.000	0.000	267.156	
木くず	21.411	0.000	0.000	0.000	21.411	
安定型混合廃棄物	1.638	0.000	0.000	0.000	1.638	
水銀使用製品産業廃棄物	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
(今後実施する予定の取組) 全体 優良認定処理業者への委託比率向上 廃プラ マテリアルリサイクル可能な物について有価での再利用先拡大 紙屑 ①戻紙使用量の増加②紙屑の処分を見直し、有価で再利用できる物を増やし、廃棄物量を削減する。						
②計画						
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙①

廃棄物処理フロー



別紙②

廃棄物管理組織図

